

・調査概要・位置づけ

これまでも「ニートやひきこもりなど社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者」(以下、「困難を有する子ども・若者」)は大きな社会問題として取り上げてられきた。困難を有する子ども若者に対する支援のうち、医療支援・福祉支援、学習支援、職業訓練については、一定の支援目標・支援方法が確立されたり、やるべきことがほぼ明確になっていたりする。一方で、医療支援・福祉支援、就学支援、職業訓練以外の支援(以下、「その他の支援」)に対しては、各支援団体がそれぞれの理念等や独自のノウハウに基づいて支援を展開していることが多く、支援目標・支援方法についての共通理解が必ずしも定まっていない。また、医療支援・福祉支援、学習支援、職業訓練を受けている者の中にも、支援内容やその時期が本人にマッチしておらず、本来ならばその他の支援を必要としているケースも散見される。

困難を有する子ども・若者の家族についても、精神的にも経済的にも大きな負担を抱えている可能性が高く、家族内の人間関係等にも困難を抱えていると考えられる。支援の現場では、家族に対して様々な支援が行われているものの、まだ支援目標・支援方法について支援方法が確立されているとは言えない。

そのような背景として、既存の調査研究では、「その他の支援の対象者」や「困難を有する子ども・若者の家族」への支援に必要な統計データや信頼できるアンケートデータが少ないことが挙げられる。本分野の調査・研究の不足を鑑みて、本年度の調査では、まず実態を正しく把握することを重視する。実態を見る上では、対象者の状況・意識を見るだけでなく、支援に対するニーズや、現在提供されているサービス、そのサービスとニーズのマッチングなどの観点を見ることを重視する。

- 【状況】そもそも「その他の支援の対象者」及び「困難を有する子ども・若者の家族」の意識はどのようなになっているか。
- 【ニーズ】「その他の支援の対象者」及び「困難を有する子ども・若者の家族」が支援に対してどのようなニーズを持っているか。
- 【サービス】各支援団体はどのようなその他の支援を提供しているのか。また「困難を有する子ども・若者の家族」等にどのような支援を提供しているか。
- 【マッチング】提供している支援(サービス)がニーズにマッチしているか、なぜマッチしないか、マッチさせる上でのポイントは何か。

上記の観点に対して、本年度の調査研究では、先行研究の調査、エスノグラフィ調査、事例調査(郵送調査・現地ヒアリング調査)、インターネットアンケート調査を実施する。

まず、既存の成果を探り、本年度調査すべき部分を明確にするために、先行研究調査を実施する。その上で、インターネットアンケートにより、主に被支援者側(支援を必要としている本人＋その家族)のニーズ等を把握したり、事例調査(郵送調査・現地ヒアリング調査)により、主に支援する側(支援団体)が提供するサービスやマッチングの工夫など把握する。さらに、支援の現場を観察し支援状況をイメージするためにエスノグラフィ調査を補足的に取り入れる。

図表 1 本年度に実施する各調査の位置づけ

	先行研究の調査	エスノグラフィー調査	事例調査 (郵送調査・現地ヒアリング)	インターネットアンケート
【状況】 「その他の支援」対象者と「困難を有する子ども・若者の家族」の状況・意識を知る	○	(補足的に 取り入れる)		○
【ニーズ】 「その他の支援」対象者と「困難を有する子ども・若者の家族」の支援ニーズを知る	○		○	
【サービス】 各支援機関・支援者の 支援内容(サービス)の把握する	○			○
【マッチング】 サービスとニーズのマッチング (マッチさせるポイント)の検討する	○		○	

(注) 調査の方法が調査項目に対してどの程度有効であるかについて「」:きわめて有効」「○:有効」「」:参考にできる」という意味。